



TITLE:

京大広報 号外

AUTHOR(S):

京都大学総務部広報課

---

CITATION:

京都大学総務部広報課. 京大広報 号外. 京大広報 2011, 1104s: 3397-3402

ISSUE DATE:

2011-04

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/196416>

RIGHT:



# 京大広報

号外

2011.4

## 目次

### 〈卒業式・大学院学位授与式〉

卒業式における総長のことば……………3398

大学院学位授与式における総長のことば……3400

### 〈大学の動き〉

平成22年度卒業式……………3402

平成22年度大学院学位授与式……………3402



平成22年度 卒業式



京都大学総務部広報課

<http://www.kyoto-u.ac.jp>

## 卒業式・大学院学位授与式

## 卒業式における総長のことば

平成23年 3月24日

総長 松 本 紘

さる3月11日に未曾有の東北地方太平洋沖地震が発生しました。この空前絶後ともいえる巨大地震と大津波で多くのかげがえのない命が失われましたことは、疾痛惨憺の極みであります。そのうちには、今日みなさんとともにこの卒業式に参列されるはずであった本学の4回生の3名が含まれていることは、極まりなく無念であります。ご遺族の方々には、心からの哀悼の意を表します。この震災とそれに続く福島原子力発電所事故により被害にあわれている方々および被災地にご家族、ご親戚、ご友人・知人がおられる方々、また、卒業生に含まれる被災各県出身のみなさんに心からお見舞い申し上げます。今後、京都大学は熟慮断行を基本としながらも、眼前の事態から目をそむけず、また近きを釋<sup>す</sup>てず、すみやかに被災地からの新入生や学生への支援を進めていくとともに、被災地の方々にできる限りの協力をおしまないつもりです。

本日、ご来賓の尾池和夫前総長、名誉教授、列席の副学長、学部長、部局長をはじめとする教職員一同とともに、2,775名のみなさんに学士の学位を授与する運びとなりました。この国難とも呼べる時期に卒業式を迎えることとなったみなさんは、手放しで喜ぶ気分にはなれないとは思いますが、学士課程を無事修了され、学位を得られたことに敬意を表するとともにお慶びを申し上げます。

京都大学の114年の歩みの中で、みなさんを含めて本学の卒業生の累計は、18万8,202名となりました。みなさんの前には、18万人を超える先輩が存在することになります。

いま日本は長く続いた社会の閉塞感にくわえ、未曾有の東日本大震災に見舞われ、茫然自失ともいえる状況です。みなさんは一市民として、また今後社会のリーダーとして京都大学で培われた人間力を基礎に、国難ともいふべきこの厳しい時代に持てる力を発揮し、世界を舞台に我が国と人類社会の未来を



切り拓く使命を果たさねばなりません。

そのために、大学院進学のみなさんは専門毎に分かれて、これから学術に磨きをかけることになります。複雑な現実については、全体像を直ちに理解することはできません。17世紀の自然哲学者ルネ・デカルトはいかに複雑な現象であれ、物事を分けて考えると科学的な思考ができるといった要素還元論の発想を示し、近代の扉を開きました。しかし、このような要素還元論にも限界があることは、我々の心の問題を考えると分かり易いでしょう。近年では心の機能をつかさどるのは脳であると考え、高次脳機能の研究とあいまって、前頭葉、側頭葉、後頭葉、脳幹など細かく研究がすすみました。それでも心の働きは見えてきませんでした。さらに脳神経、脳細胞を切り込んでいっても、まだ全体としての心は明確にはなっていません。このように、細かく分けたからといって、かならずしも事態を解明できるとは限りません。しかし、要素還元論が一定の成功を収めてきたことは軽視されてはならず、みなさんはそれぞれ細分化された各学問分野の専門家として、まず自立するよう努力すると同時に全体像を見失うことがないように常に心がける必要があるでしょう。

卒業後、直ちに社会に羽ばたくみなさんは、職場では社会の具体的な問題<sup>いにしえ</sup>にいきなり直面することになります。古<sup>みやこ</sup>よりの都京都での大学生活で身につけた知識や体験だけで対処できる問題もあると思いますが、それだけでは不十分なことも数多いと思います。常に社会のニーズを自分でとらえ、必要とされる知識を生涯学び続ける必要があるでしょう。

昔から教育は、ややもすると人から教わり、知識



を授けてもらうにすぎないと思われがちですが、真の教育というのは、教え育むとあるとおり、「育む」という点が重要であり、先哲はそのための教育法をいろいろと考えてきました。世の東西を問わず教育の第一段階は、それまでに伝えられた知識を教える。教えられる側からいえば、知識を伝授される段階といってもいいでしょう。すなわち、聞いて知識を脳の中にインプットする。その段階を終えると、その次は、ある程度できあがった知識ベースを基礎に、自分で考えさせる教育段階があります。物事を考え、知識の足りないところを自分の思索で補い、必要に応じてもう一度知識を得た初期の段階に立ち戻って、調査を行い、改めて知識を再構築します。それが多くの教育法のパターンであり、単純な知識の伝授だけでなく、自らが独自に考えられるようになるために有効な方法です。ここまでの二つの過程は、インド仏教伝来の「聞慧」つまり聞いてつける智慧と「思慧」つまり考えてつける智慧にあたります。仕上げには第三段階の「修慧」があり、これは実践を通じてつける智慧です。これらの三段階を「聞思修」といいます。

学部卒業後ただちに社会に出る人は、いきなり「修」つまり実践の世界に入るといえるかもしれません。それぞれの段階において、聞思修のウェートの置き方は違いますが、やはり聞思修を進めていくことに違いはありません。今ここにいるみなさんは、「聞」と「思」についてはすでに一定程度おさめられたと思います。大学院に進学する人はさらに思索を深め、学術の世界で「修」に至っていただきたいと思います。さらに博士課程を希望するみなさんには、「聞思修」という考え方を忘れずに、あまりにも細分化された専門分野からの管見に世の中の複雑な現実を見失わないようにしてもらいたいと希望します。

本学の自学自習は、まさに「聞」を終え、「思」索に入る段階で、自分で考えて隙間を埋めるということです。また、「聞」が足りなければもちろん前に戻ります。そのときに、安易にインターネットに頼るのではなくて、人類の学術の精華・真髄ともいえるべき古典書籍の玩味などを通じ、時空間を超えて広く情報を集めていただきたいと思います。そして、とき

には自分の中に積み上がっている既成の知識や考え方から自らを解き放ち、自由闊達に常に自らを見直すと同時に、社会の常識、科学の知見なども常に自らの考えに基づいて根本から再検討していただきたいと思います。それが自学自習の根本です。それが何のためかというところ、最終的には「修」、実際の行動、人生の歩み方というところに繋がるものであるからと私は考えています。そして、このプロセスを円滑に進め、多くの人材を今後も本学から輩出させつづけるための試みとして本学では、リーディング大学院の構想が生まれています。これまでの研究科タイプの大学院に加え、世界のリーダー育成を目指した新しいタイプの大学院の構想で、平成24年の開設を目指しています。

この卒業式で一つの区切りをつけ、新しいスタートラインに立つみなさんを、京都大学はこれからも応援していきます。卒業するみなさんがときには母校を訪ね、語らい、また同窓会活動の場として、また生涯の学習の場として京都大学を人生の基軸として積極的に活用していただけるよう願っています。

また、ご家族のこれまでの厚い支援に大学として御礼申し上げるとともに、卒業生のみなさんには、これまでのご家族の負担や支援に対し、ぜひ感謝の気持ちを忘れず、素直に感謝の気持ちを伝えてください。

卒業して、社会で活躍されるみなさんには、様々な場所で、京都大学で身につけた自学自習の精神を活かして活躍しつつ、みなさんの母校である京都大学で研究教育を続ける研究者の応援をお願いします。また、残りのみなさんは、修士課程に進学され、大学院で学び、研究を続けることになりますが、私は京都大学が優秀な人材を活かせる大学であるように、学内外で必要となる改革を進めていきたいと考えています。

最後に、今後も絶えず自らを省みて、身体を鍛え、こころを磨き、人の痛みや社会の問題を敏感に感じ取れるよう、バランス感覚を大切に、知勇兼備の人としてご活躍されることを願い、学士の学位を授与されたみなさんへの私の饒言<sup>はなむけ</sup>の言葉といたします。

本日は誠にありがとうございました。

## 大学院学位授与式における総長のことば

平成23年 3月23日

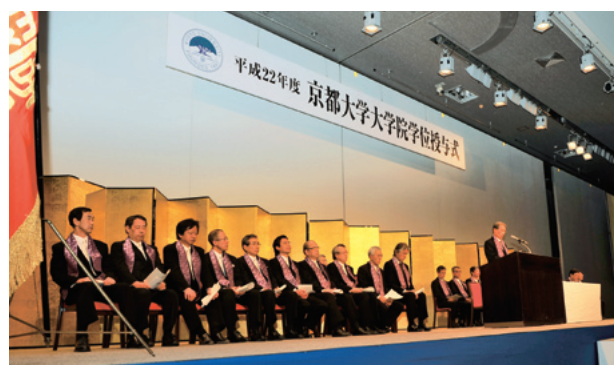
総長 松 本 紘

さる3月11日に東北地方太平洋沖地震が発生しました。この空前絶後の巨大地震と大津波でかけがえない命が数多く失われました。大変痛ましいことであり、その中に本学の4回生3名も含まれ、関係者一同深く心を痛めており、ご遺族の方々には心からの哀悼の意を表します。そして、この惨劇ともいうべき東日本大震災とそれに続く福島原子力発電所事故により被害にあわれている方々や被災地にご家族、ご親戚、ご友人・知人がおられる方々に心からお見舞い申し上げます。今後、京都大学として、できる限りの支援の手を差し伸べる決意です。

さて、京都大学において修士の学位を授与される2,164名のみなさん、修士(専門職)の学位を授与される142名のみなさん、法務博士(専門職)の学位を授与される201名のみなさん、博士の学位を授与される612名のみなさん、おめでとうございます。本日学位を授与される3,119名のみなさんには、708名の女性と262名の留学生が含まれています。本日で、京都大学が授与した修士号の累計は63,468名、修士号(専門職)の累計は622名、法務博士号(専門職)の累計は1,095名、博士号の累計は38,458名になりました。列席の副学長、研究科長、学舎長、教育部長、研究所長をはじめとする教職員一同とともに、みなさんの学位取得をお祝い申し上げます。

学位を授与されるみなさんのご家族、ご友人、関係者の皆様には、この学位授与式へ大いなる期待を胸にご臨席いただいているものと思います。本日学位を授かるみなさんは、周りの方々からこれまで受けた長年にわたる支援に対して感謝の気持ちを抱いていることと思いますが、この式典の後、その感謝の気持ちを率直に伝えてください。私たち教職員一同も、ここに至るまでのご家族の様々なご苦労やご支援に対して御礼を申し上げ、今日の喜びを分かち合わせていただきたいと思います。

これまでみなさんが在籍してきた大学院は厳しい研鑽の場であったかと思います。みなさんの中には、何度も挫折しそうになり、苦悩の日々を経験された人もいるでしょう。みなさんはそれらを乗り越え、



大学院において専門を修め、その専門において自樹自立できる力を本日、京都大学学位の授与という形で認められました。みなさんには本日から誰にも臆することなく、それぞれの学位を誇りとし、個性を発揮し、身につけた専門を生かして、未曾有の国難に見舞われた日本を蘇らせ、復興させる大きな原動力になってほしいと願っています。これがみなさんに課された使命です。また、長期的には人類が直面する多岐にわたる多難な問題、課題に果敢に挑戦し、それらの問題の解決に大きな貢献をされることを期待します。学問とは真実をめぐる人間関係であると私は信じています。みなさんには、人の苦しみ、痛みを敏感に感じ取り、相手の立場、人類社会の状況をよく理解し、天に恥じず、堂々と胸を張って人生を歩んでほしいと願っています。

修士、修士(専門職)、法務博士(専門職)の学位を授与されたみなさんの中には、独創性あふれる修士論文を完成させた人も、それぞれの専門分野の精華、つまり真髄を垣間見た人もおられるでしょう。それを人生の基礎として、それぞれの進路においてますます研鑽を積んでいただきたいと思います。とりわけ、博士課程に進学する人はそれぞれの専門へのさらなる沈潜と同時に広い学識が求められます。

博士の学位を授与されたみなさんには、専門を掘り下げ、他人が成し得なかった独創的な仕事を成し遂げたという誇りと自信がこれからの人生の大きな支えとなります。切り拓いた研究は、歴史に留められるものもあるでしょう。また、テーマそのものは、時の流れの中で陳腐化していく運命にあるかもしれません。しかし、それを作り上げる過程で傾けた努力や体験した悩み、成し遂げたときの喜びは、みなさんの人格を磨いてきたはずで、これからの人生で経験する苦しいときや追いかけるべき課題を見失ったときには、博士論文の完成に費やしたこれまでの

日々を思いだして、チャレンジする強い意志と信念を呼び戻していただきたいと思います。

本日は、明治の文豪夏目漱石の隻眼せきがんの一端を紹介したいと思います。それは芸術を論じた随筆『素人と黒人くろうと』の中で展開されるものです。非常に短く、十分に推敲された作品ではないと本人は述べていますが、漱石はいわゆるプロ、プロフェッショナルを普通に使われる「玄人」でなく「黒い人」、黒人と書き、「くろうと」と読ませています。その作品で玄人の陥りやすい視野狭窄のメカニズムを明らかにし、その弊害に警鐘を打ち鳴らしています。漱石曰く、「黒人は局部に明るいくせに大体を眼中に置かない変人に化けてくる」。ここで漱石が大体と言っているのは全体像を意味します。そして、一方「(その弊を免れている)素人は馬鹿馬鹿しいと思っても、先が黒人だと遠慮して何もいわない。すると黒人はますます増長してただ細かく細かくと切り込んでいく。それで自分は立派に進歩したものと考えるらしい」とも述べています。このエピソードは、まさに高度に細分化を遂げた学術にも当てはまる警告ではないでしょうか。近代科学は、17世紀に活躍した自然哲学者のルネ・デカルトが主唱した要素還元論に多く依拠しています。つまり、現象を細部の単純な事象の合成ととらえ、個々の単純な事象の解析を精緻に行うことで、元の現象は理解できると考えるものです。そして、細部に分解してなお理解できないときには、さらに細かく切り刻んで研究を進めます。確かに、このようにして近代科学は飛躍的に進歩し、数々の現象の理解を大いに高めてきました。しかし、現象を要素に還元して、細部を精密に解析することだけでは、大きな輪郭をもつ根本の問題が解決できるとは限りません。みなさんもそれでは解きえない問題がいくつかすぐに頭に浮かぶことでしょう。それゆえ、黒人は細かく議論はできるが、それは全体像、すなわち本質的問題を解決する方向に深くはなっていないといったことも起こってしまうのです。一方、素人は専門家として細かく見る技術を欠きますが、その代り全体像を鮮明にとらえることができる場合が多くあります。学位を取得するまで専門を修めたみなさんにおいても、細部を分析する熱意が高ければ高いほど、全体像を忘れがちなもの。これは漱石も看破しているように、人間の一般的傾向といえるものです。みなさんには、今日を契機に、専門

に加えて、全体を見る素人的な目を忘れず、さらにその目を自分の専門の社会や人生のなかでの立ち位置を常に省みることに活用してほしいと思います。

素人の効能はそれにとどまりません。漱石は次のようにも言っています。

「人の立てた門を潜るのではなくって、自分が新しく門を立てる以上、純然たる素人でなければならない」と言っているのです。なぜなら開拓者は新天地に初めて足を踏み入れる人のことで、切り拓いた分野においては最初は素人であったはずだからです。このことは福沢諭吉が宋史から好んで引用した「自我作古じがさつこ」、つまり我より古を作すの精神にも通じます。これは自分自身が新しい世界を作る、今風に言えばイノベーションの心持ちでしょう。みなさんが新しいことにチャレンジして、素人として率先して新世界を切り拓いてください。

みなさんのこれから進む人生において、一層の知識や経験が必要となるときがやってくるかもしれません。その際には、みなさんが学びしこの京都大学を思い出し、基本に立ち戻ってください。きっとその過程で新しい自分を発見するでしょう。また、折に触れ母校を訪れてください。みなさんと京都大学との縁は、同窓会や生涯の学びを通じてこれからも続きます。京都大学はみなさん一人一人の人生の基軸として力になりたいと思います。

国家の危機的な財政状況や国難ともいえる大震災の下、本学も改革待ったなしの状況に立たされています。京都大学も努力を重ね、ただ「強い」や「賢明な」だけでなく、「社会の変化を機敏に読み取り、変化にしなやかに適応できる大学」をめざしたいと思っています。みなさんにおいても、母校を温かく見守り、今後ともご支援いただきますようお願いいたします。同時に、先に述べましたように、京都大学はみなさんの人生の基軸と呼べる存在になっていきたいと考えています。

最後に、本日学位を手にされました3,119名のみなさんが、持てる力のすべてを生かしきり、これまでの研鑽の過程で培われてきた豊かな人間力を今後とも磨き続け、世界のリーダーたるべくさらに高度な教養を身につけ、いきいきと活躍することを願い、私の饒はなむけの言葉といたします。

本日は誠にありがとうございました。



## 大学の動き

### 平成22年度卒業式

3月24日(木)午前10時から、京都市勧業館みやこめっせにおいて、尾池和夫前総長、名誉教授をはじめ各副学長、各部局長等の出席のもとに平成22年度卒業式が挙行された。式典開催にあたり出席者一同で、3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震の被災者に対し、1分間の黙祷により哀悼の意を表した。学歌斉唱に引き続き、松本 紘総長が各学部代表に学位記を授与した。

続いて松本総長の式辞があり、最後に全員で「蛍の光」を合唱して、午前10時47分に終了した。

新学士は計2,775名であり、学部別での卒業生数は総合人間学部127名、文学部200名、教育学部61名、法学部306名、経済学部252名、理学部296名、医学

部(医学)97名、医学部(人間健康科学)143名、薬学部(薬学)2名、薬学部(薬科学)50名、工学部930名、農学部311名であった。



(学務部)

### 平成22年度大学院学位授与式

3月23日(水)午後2時から、京都市勧業館みやこめっせにおいて、各副学長、各部局長等の出席のもとに平成22年度大学院学位授与式が挙行された。なお、今年度より博士学位授与式は9月と3月の年2回になり、3月は大学院学位授与式として修士、修士(専門職)、法務博士(専門職)と合同で実施した。

式典開催にあたり出席者一同で、3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震の被災者に対し、1分間の黙祷により哀悼の意を表した。松本 紘総長が修士、修士(専門職)、法務博士(専門職)の各研究科、学舎、教育部代表に学位記を授与し、続いて博士出席者全員に学位記を授与した。その後、松本総長の式辞があり、午後4時19分に終了した。

修士学位の修了者は計2,164名であり、学位に付



記する専攻分野の名称別では文学101名、教育学43名、法学14名、経済学33名、理学285名、医科学22名、人間健康科学49名、薬学62名、薬科学20名、工学674名、農学283名、人間・環境学161名、エネルギー科学107名、地域研究23名、情報学173名、生命科学73名、地球環境学41名であった。修士(専門職)学位の修了者は計142名であり、社会健康医学28名、公共政策49名、経営学65名であった。法務博士(専門職)学位の修了者は201名であった。

博士学位は平成22年11月24日付け、平成23年1月24日付け、3月23日付けの計612名に授与された。課程博士取得者は計548名であり、学位に付記する専攻分野の名称別では文学25名、教育学17名、法学16名、経済学21名、理学94名、医学78名、医科学8名、社会健康医学2名、薬学21名、薬科学5名、工学105名、農学42名、人間・環境学35名、エネルギー科学8名、地域研究18名、情報学25名、生命科学23名、地球環境学5名であった。論文博士取得者は計64名であり、学位に付記する専攻分野の名称別では、文学3名、教育学2名、法学1名、経済学3名、理学8名、医学14名、薬学2名、工学10名、農学13名、人間・環境学1名、地域研究3名、情報学4名であった。

(学務部)

大学院学位授与式および卒業式の両会場にて、東北地方太平洋沖地震で被災された方々への義援金をお願いしたところ、1,282,945円のご協力をいただきました。この義援金は、全額を日本赤十字社又は被災地の自治体などへ寄附させていただきます。なお、この募金活動は、学生有志に協力いただきました。